

東日本大震災から 12 年

～「絆」から「つながり・支え合い」のある社会へ～

2011年の東日本大震災から、間もなく12年。震災がきっかけで様々な支援の輪が広がり、「絆」の大切さが再認識されました。今はコロナ禍によって、「人」や「地域」とつながり続けることの重要性が感じられています。

「七日原長寿会」では、季節の行事や花壇の花植えなどで交流する傍ら、地域の1人暮らし高齢者宅を訪問し、声をかけたり、お話し相手をする「友愛活動」にも取り組まれています。互いに思いやり、孤立や閉じこもりを防ぎながら、豊かなつながりを育んでいます。

つながりが希薄になりやすい昨今ですが、これからは住民の皆さんの地域活動がより活発になり、互いに支え合い、思いやるような地域社会をつくっていくことが大事ではないでしょうか。



▲地域の小さな活動から、住民同士のつながりを育みます。
(輪投げで交流を深める「七日原長寿会」のみなさん)